

初秋の里山

(2009年09月05日 (晴天) 奥三河某所)

久しぶりの散策です。8/31日に衆議院議員選挙も終わり、仕事のバタバタもひと段落ついたので、土曜日を一日使って奥三河まで行ってきました。9月になり残暑は残っていますが、夕方になると秋風を感じるようになり気持ちがいい季節です。

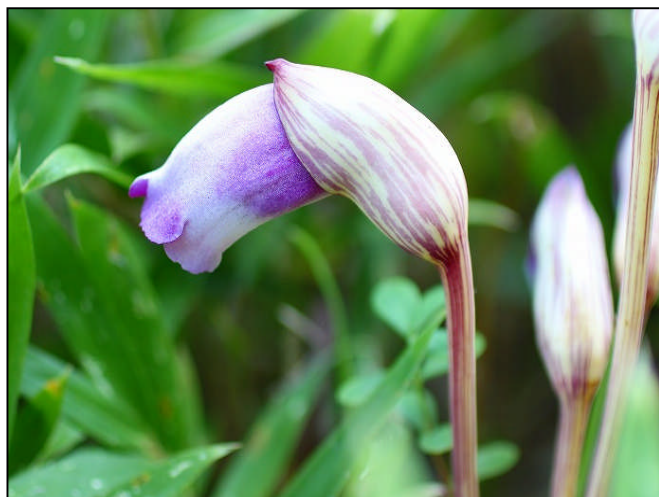
道中にある豊橋市街地から車で2~30分の場所で、田んぼの脇にある溜め池のあぜ道で秋らしい花をいろいろ撮影することができました。

ナンバンギセルはススキやチガヤ、ササなどのイネ科の植物に寄生する寄生植物で、葉が無く葉緑素を持っていません。寄生植物には希な、ピンクの非常に美しい花を咲かせます。深山というよりは明るい野原を好むため、都市部でも運がよければ出会うことができます。

フジバカマも秋を代表する花ですが、里山の宅地化や道路化などの開発により最近ではめっきり少なくなりました。



フジバカマ(秋の七草です)



ナンバンギセル

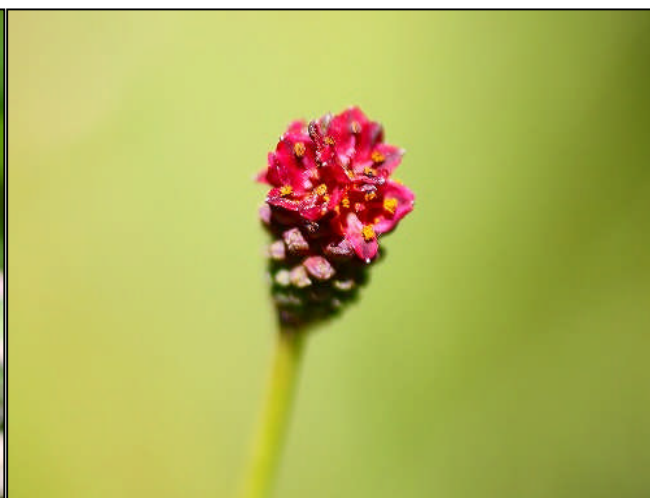
ツルボはユリ科の植物で、田んぼの土手などを好み群生します。草姿はニラのようで、地下にラッキョウのような球根があります。薄紫色の花が秋の土手に点在する姿は大変かわいらしいものです。

ワレモコウはバラ科の植物で、どこの田んぼの土手にもあるようなポピュラーな花です。草姿は背丈が低くギザギザの硬質な葉をしています。花茎を伸ばすと1mほどにもなり、その先に写真のような赤茶色で塊状の花を咲かせます。この秋らしい素朴な風情の為、生花などでも好んで用いられます。

そして寄り道はこのくらいにして車で奥三河に入り、今回の目的であるアケボノシュランの自生地に向かいました。ここは杉林下の沢沿いで数百株の群落が点在する大変貴重な自生地です。しかし、残念ながら若干時期が早かったようで、どれも蕾で1輪も咲いておりませんでした(泣)



ツルボ



ワレモコウ



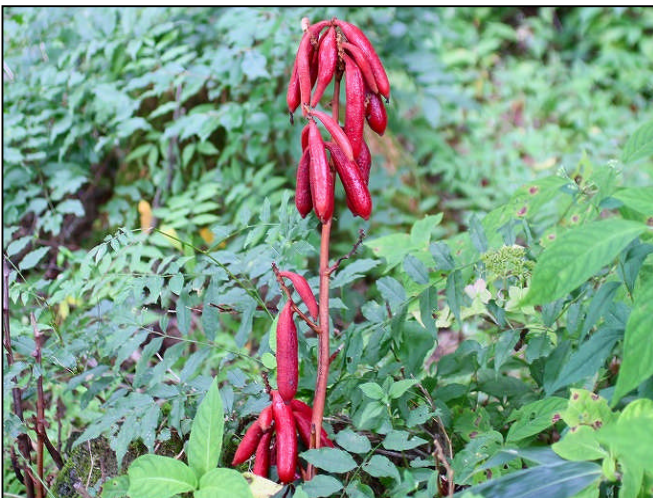
アケボノシュスラン

その他、**イワシャジン**や**ジンバイソウ**もまだでしたし、今日はまだ秋を感じるには早すぎたかなあと諦め半分、標高500m付近の高地までやってきました。

そんな中で偶然見つけたのが**ツチアケビ**です。これは腐生菌の代表種で、背丈も50cmほどと大きく、赤いバナナのような実は遠目でも良く目立ちます。私はこの花には何度か出会っておりますが、この場所で出会えるとは予想外で、ベストシーズンに撮影できたことが大変嬉しかったです。

その他にも**サワギキョウ**や**マツモトセンノウ**、**ツリフネソウ**など初秋の花に出会えました。目的のラン科の植物はあまり撮影できませんでしたが、そんなこんなで充実した撮影が出来ました。

皆さんもお時間がありましたらぜひカメラを片手に初秋の里山を楽しんでみてください。



ツチアケビ



サワギキョウ



マツモトセンノウ



ツリフネソウ